

東北の豊かな暮らしに触れる、情報発信拠点がオープン

東北全体の交流人口の拡大や活性化を図るため、「LIVE+RALLY PARK」を勾当台公園内にオープンしました。ここでは、東北の特産品や書籍の展示・販売を行うほか、各地の食材を活用したカフェも営業しており、ゆっくり飲食を楽しみながら、東北の暮らしに根差した地域の魅力に触れることができます。

3月17日のオープンを記念して、25日までの間、東北の産品を扱ったマルシェ、地域で活躍する方を



▲拠点施設では、東北の産品の展示や販売等を行います(営業時間10:00~17:00)

市政トピックス

平成30年度の主な組織改正(4月1日付)

いじめ防止や児童虐待対策の強化のために(子供未来局)

●いじめ対策推進室の新設
全庁的ないじめ防止に向けた取り組みを推進するため「いじめ対策推進室」(部相当)を新設しました。

●緊急対応係の新設
増加する児童虐待問題へ重点的に対応していくため、児童相談所相談指導課に「緊急対応係」を新設しました。

宮城総合支所の保健福祉機能強化のために(青葉区)

●宮城総合支所管理課の新設等
身近でサービスが受けられるよう、保健福祉分野の取り扱い業務を拡充するため「管理課」を新設するとともに、保健福祉課福祉係を分割し、「子供家庭係」および「障害高齢係」としました。

都心をはじめとしたまちづくりの効果的な推進のために

●計画部および市街地整備部の再編(都市整備局)
エリアに応じたまちづくりを効果的に推進するため、計画部東西線沿線まちづくり課、市街地整備部市街地整備調整課および市街地整備事業課を再編し、市街地整備

市政トピックス

招いたトークライブ、手仕事を体験できるワークショップなどのイベントが開かれ、多くの人でにぎわいました。

今後、定期的に東北に関連するイベントやワークショップを開催するほか、ウェブサイトを通じて、各地の多様な魅力を発信していきます。

市政トピックス

東日本大震災仙台市追悼式を開催

東日本大震災の発生から7年となる3月11日、宮城野体育館で追悼式を行いました。会場には、ご遺族など約340人が参列。政府主催の追悼式が中継され、地震発生時刻の午後2時46分に全員で黙とうをささげました。

郡市長は「犠牲となられた方々の想いを胸にさらなる復興を目指すとともに、仙台の未来を輝かせるまちづくりに、全力を挙げて取り組みます」と式辞を述べました。その後、宮城野区の仮設住宅に住んでいた方が中心となって結成した「みやぎの『花は咲く』合唱団」

市政トピックス



の皆さんにより、歌がささげられました。

また、会場と各区役所等に設置した献花場には、合わせて約5800人の方が追悼に訪れました。

市政トピックス

今年のテーマは企業防災「仙台防災未来フォーラム」

3月9日、エル・パーク仙台会場に「命を守り、地域に根ざす企業防災の取り組み」をテーマとして、「仙台防災未来フォーラム2018」を開催しました。

地元の企業が日頃の訓練の大切さや、社員・地域を守る意識の重要性、本業の技術を避難所で応用した事例などについての発表を行ったほか、防災製品などを紹介するブース展示もあり、約1500人の参加者は熱心に聴講や見学をしていました。

市政トピックス

「仙台『四方よし』企業大賞」が決定

「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三方よしに、働きやすい職場環境づくりに取り組む「働き手よし」を加えた「四方よし」を実現している中小企業を表彰する、「仙台『四方よし』企業大賞」。このたび、2回目となる平成29年度の受賞企業が決定し、2月25日に表彰を行いました。

大賞は「古紙リサイクルポイントシステム」により地域に活力を与えるリサイクルなどに取り組んでいる、株式会社サイコーが受賞。また、株式会社清月記、株式会社グッドツリーの2社が、優秀賞を受賞しました。市では今後も、中小企業の地域課題解決や魅力的な職場環境づくりに向けた取り組みを後押ししていきます。



▲「仙台『四方よし』企業大賞」を受賞した企業の皆さん

3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本を、紹介します。

「東北の震災と想像力」



鷺田清一×赤坂憲雄 著 講談社 刊

記憶は薄れていきます。人生のよりどころとなる何もかもを、一瞬のうちに奪われた方々の心から、少しずつでも悲しみや喪失感が薄らぐようにと願う一方、その痛みの奥底に向き合い、失ったものの重みを共有せずに、この震災を未来に伝えることはできないだろうとも思います。

この2冊は、東北に生きる私たちが被災直後にあるべき復興の姿を必死で探っていた時の、思考の原点に立ち返らせてくれます。鷺田氏が河瀬直美監督の映画から本書に何度か引用している言葉を借りれば、「忘れてええこと、忘れたらあかんこと、忘れなあかんこと」について、じっくりと考えるための多様な視座を与えてくれるのです。

「表現者たちの『3・11』」



河北新報社編集局／編 河北新報出版センター 刊

表現者たちは被災した人々に寄り添い、深い思考の中から目には見えないものを地道に形にしてきました。その活動には、住民が心からの復興を遂げるための後押しをする、色あせない力が宿っているように感じます。街並みを奪われたことで海辺の人々の共助の知恵や共同体の強さが改めて見いだされ、再生すべきコミュニティの未来の姿がそれに重なったあの日、小さな希望が生まれました。

今が、あの日描いた未来なのでしょうか。インフラの復興が終盤に向かう中で、新たな基盤にどう魂を入れるべきか、東北人として世界に伝え続けていくべきことは何か、これらの本は私たちに問うてきます。

※紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・15805